

健康長寿に係るイチオシ事業 戸田市 ～埼玉県コバトン健康マイレージ～

(1) 事業概要

戸田市は、令和元年度から「埼玉県コバトン健康マイレージ事業(以下、「マイレージ事業」という)」を開始した。「マイレージ事業」において、参加者はタブレット端末やスマートフォンアプリで歩数管理やデータを見たり、歩数に応じて獲得したポイントに応じて抽選で賞品を得たり等、楽しみながら運動を継続することの出来る事業である。

本市は従来、市の目標とする「健康寿命の延伸」のため、平成26年度から「健康づくりポイント事業(以下、「ポイント事業」という)」を実施し、平成28年度から平成30年度までの3か年においては、埼玉県健康長寿埼玉モデル普及促進事業に則り「ポイント事業」を実施してきた。

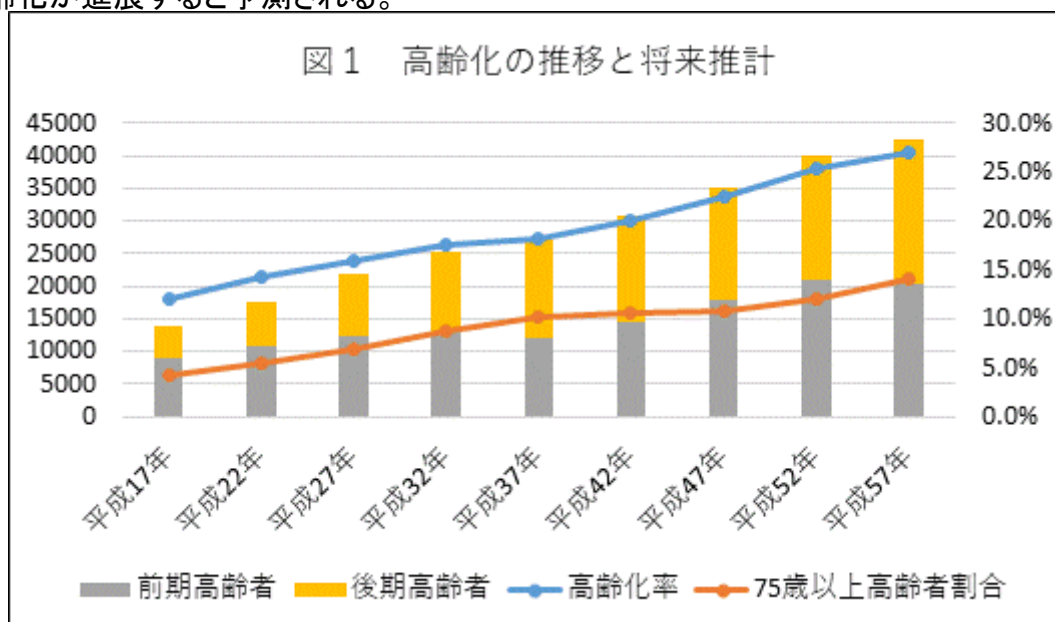
しかしながら、「ポイント事業」は、6か月間の期間であり毎年更新が必要であること、参加者の年齢層が高いこと、男性及び働く世代の参加者が少ないこと等、事業に関する課題が生じた。

そこで、多くの市民の参加及び健康づくり事業の活性化を図ることを目標とし、「ポイント事業」では対応出来なかったICTの活用や再更新手続きを行う必要がないこと等、市民が参加しやすい「マイレージ事業」へ本市も参加することとした。

(2) 契機

(ア) 高齢化率の上昇

埼玉県による市区町村別平均年齢の資料によると、戸田市の平均年齢は40.8歳(平成31年1月1日)と埼玉県下1位の若い市である。平成31年1月1日現在の埼玉県町(丁)字別人口調査では、高齢化率は16.2%と県平均25.9%と比較して低い状況にある。しかし、将来推計人口によると、令和27年(平成57年)には27.0%となり、今後急速に高齢化が進展すると予測される。



資料:平成27年までは国勢調査、平成32年以降は「日本の市町村別将来推計人口(平成30年推計)」

※埼玉県ホームページ「平成30年度版地域別健康情報(戸田市)」より

様式 1

(イ) 県内平均より短い健康寿命

健康寿命の定義については、県と同様に本市も「65歳に達した県民が自立した生活を送る期間(要介護2以上)になるまでの期間」としている。県のデータによると、平成29年度本市は男性16.67年(平成28年度16.50年)、県内市町村中62位、女性19.93年(平成28年度19.77年)で同56位と、男女共に前年度と比べて伸びたものの、依然として埼玉県内においては短い状況にある。

表1 健康寿命

年度	男	県内順位	女	県内順位
平成29	16.67年	62位	19.93年	56位
平成28	16.50年	63位	19.77年	56位

(3) 内容

(ア) 事業内容

表2 マイレージ事業内容

事業名	埼玉県コバトン健康マイレージ
事業開始	令和元年度
予 算	413.3万円 ・賃金 44.7万円 ・講師謝礼 5.0万円 ・記念品 16.5万円 ・タブレット設置台・歩数計等 131.1万円 ・チラシ等印刷物 71.8万円 ・郵便料 52.5万円 ・負担金 91.7万円
参加人数	497人(令和元年12月31日現在)
期 間	令和元年7月～
実施体制	戸田市福祉保健センター、市内公共施設7か所

様式 1

(イ) 市民への周知(令和元年6月～)

- ① 広報、ホームページ、Facebook、Twitter 等に情報掲載
- ② 国保主管課窓口にチラシを設置
- ③ 町会内537か所にポスターを掲示
- ④ 市内公共施設8施設にポスター、チラシ及びのぼりを設置
- ⑤ 健康まつり、国保のイベントや出前講座等でチラシを配布
- ⑥ 平成30年度健康づくりポイント事業参加者へ申込書を送付
- ⑦ 戸田市国保加入者の特定健診受診券送付時にチラシを同封
- ⑧ テレ玉(地デジ 3ch)、J:COM 川口・戸田で戸田市紹介ビデオ「ふれあい戸田」内で放映。

(ウ) ウオーキング教室を開催(令和元年7月、8月)

マイレージ事業の参加を促すため、健康運動指導士を講師とした教室を開催。7月12日は20人、8月24日は17人が参加した。同日「ふれあい戸田」のTV撮影を行い、マイレージ事業参加勸奨を目的とし、後日教室の様子をTVで放映した。

(4) 事業効果検証

埼玉県において、参加自治体の国保加入者に関する歩数と健診結果及び医療費データとの関係性をまとめ、アンケート結果を取りまとめる予定。また、本市独自としては、参加者の年齢構成、性別を把握し、従来事業の課題であった「働く世代の参加者の獲得」が達成しているかを確認する予定。

(5) 成功の要因、創意工夫した点

(ア) ICTを取り入れたこと、窓口手続きを不要としたこと

従来のポイント事業では、窓口で手続きをし、紙で記録していた。マイレージでは窓口手続きをなくし、ICTを取り入れたことにより、従来の事業より多くの参加者が負担を感じることなく参加することが出来ると思われる。

(イ) 継続意欲を維持できるよう、インセンティブを工夫したこと

企業や団体から提供を受けた賞品だけでなく、市民の方のアンケート調査により希望の多かった賞品を市独自で準備した。

(6) 課題、次年度に向けて

(ア) 参加者数の伸び悩み、現役世代の参加

参加者の年齢構成としては、50歳～60歳未満が最も多く109人、次に40歳～50歳未満が96人(令和元年12月末現在)。従来実施した健康ポイント事業と比較し、目標としている働く世代の参加者の獲得は達成可能と思われる。

新規参加者のマイレージ事業2年目となり、参加意欲のある市民は既に参加していると思われる中、新規参加者を増やす必要がある(予算上目標1,000人)。広報、パンフレット、チラシ、HP、ツイッターなどの従来の周知方法は継続しながら、より一層魅力あるイン

様式 1

センティブの導入や新たな周知方法により、参加勧奨を図る予定。

賞品抽選方法について、従来は担当職員が職務室で行っていた抽選ところであるが、透明性を図るため、令和元年度健康マイレージでは、講習会室で動画や写真撮影を行い、課長職が抽選を行う予定である。令和2年度では、賞品が増額することから、従来以上に公平性を保っていることや透明性の高い抽選会方法を行う必要がある。

タブレット端末でトラブルが生じた際には、現在担当のみで対応しており、担当者不在の場合には対応出来ない状況となっている。今後は、より多くの職員が対応出来るように検討する必要がある。